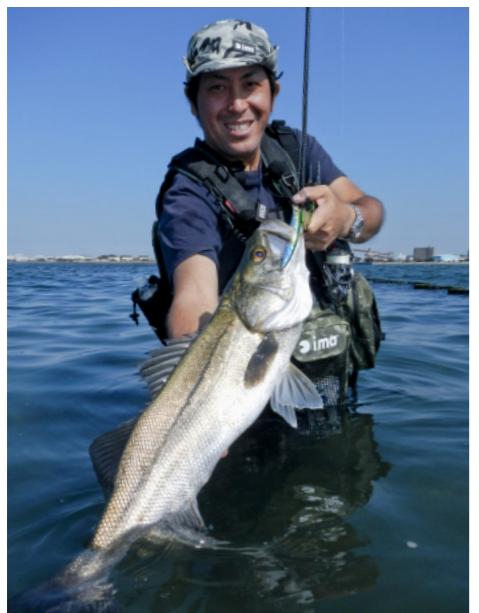




道草大好き。
その性分が、遠征の日々を
何倍も楽しくしてくれる。

RED Nakamura
RED 中村



少なくなるでしょう。その点、オカツパリは大自然を身近に感じることができる上、キャンプを含め花鳥風月を楽しむという点では「歩も一歩モリーノ」としているように思う。それにどうも私は地ベタを這いつくばっている方が性に合うようで、地に足をつけて釣りをしているほうが落ち着くのである。最近ではトラウト類を楽しむ機会も増えたが、ソルトでのメインターゲットはやはりシーバス。普段、ホーミムである東京湾のマルススキや伊豆で狙っているヒラズスキをあえて遠征で狙うのだ。シーバス達の環境適応能力は高く、多様なシチュエーションに根付いているのがわかる。技術的なことはホームで培った知識を遠征で応用するのだが、やはりそこはそれぞれの土地に適応した微妙に違った性格のシンバスがいる。その辺を修正しつつ結果に結びつけるのだが、これが意外や意外！毎回遠征の度に新しい発見があつたりして、全く飽きのこないターゲットなのである。遠征先での経験に基づいて新しいルートから生まれたのが「RED STAR ARMY」の商品群だ。どれもこれもひねくれたクセのある「これら」のルアーは、多様な使用法があるモデルが多い。も

ちろんただ投げて巻くだけでもきちんとアクションするのだが、使い込むことによって様々な使用法ができる、「応用の利く」ルアーとなっている。釣りと、いうのは自然が相手の遊びである。当然ながらマニアック通りに事は運ばないし、マニアック通りの釣りをして面白くない。その日の天候、流れ、水色、潮位、ベイト状況その他が複雑に絡み合つ中、どうルアーを使いこなすかを楽しむ遊びだ。ようつ一つのルアーで様々な使い方ができるよう発展性のあるルアーの方が想像力をかきたてられて面白いのではないか?使い手によって自分なりの使いこなしを発見して「いただければ良いなあ」と考えている次第である。

だいぶ遠征の話からはそれてしまつたが、遠征での釣りの楽しみ方は人それぞれ。「二十代の頃はただひたすら時間を惜しんで「リッドを振り、大きな魚やたくさんの魚を釣ることだけが、釣りの楽しみ方」と思い込んでいた。しかしながら歳を重ねるごとにようやく遠征の釣りを取り巻く様々な環境を楽しめるようになってきた。余裕を持って遠征の時間を楽しめることが贅沢なことはないと感じ、と思える時間を作たくさん過ごしたいと思つた。

2013年も、釣りを仕事と趣味にして良かつたと思ふ。時間を使つて、

最近は航空網も発達し、格安航空会社を利用できることもあってか、以前にも増して遠征釣行がより身近になってしまっている。私もそういう交通手段を利用することによって、より遠征が身近になり、口ケをする環境もだいぶ良くなってきたように感じている。しかしながらシーバスの分布域を考えると、航空機を使った移動は最大でもせいぜい2時間ほど。そこに旅をしているという旅情を感じることは希薄になってしまったように思う。何分、学生時代は東南アジアを旅する貧乏バッカーカーだったので、なにかとノンビリ無為な時間を過ごすのが好きな性格。実は皆さん気が付いているほどに釣りにガツガツしておらず、多趣味で色々な方向に興味があるので、道草寄り道が大好きなのだ。遠征途中に有名なB級グルメがあればチヨイとつまみ、入浴。そんな風にだんだんと目的地へ近づいていくと氣分も盛り上がるというもの。

また、なんやかんや言いつつ、取材先で宿をとら
ないで車中泊にするのもいいものだ。特にナイト
ゲーム中心のマル狙いでは宿を予約してもチェック
イン、チェックアウトの時間が合わないばかりか、現
地での機動力が悪くなってしまうケースもある。
そんな時車中泊ならばまったく気にならない。好
きな時に寝ることができるし、釣り場近くに潜伏
していれば早朝に起床してすぐにポイントに入る
ことも可能だ。それに加えて、密かにキャンプ好き
&道具フチの私、神田界隈の山登り用品街や中
古ミリタリー屋で品定めしながら買い集めたバー
ナーやらゴツヘルなんかこそぞとばかり大活躍。
遠征先はお食事処やコンビニが無い僻地も多いの
で、こういった小道具が大活躍してくれる。あまり手
の込んだ料理は作らないものの、寒い時期の鍋
物やスープは外で作って食べる美味しさは五割増
しだ。たまに買ってみる怪しげな輸入食材を使って
夕食を作ったりするのも実に楽しい。そんな料理

を突っつきながら仲間と一緒に「一郎や安焼酎を片手にその日の釣り談義をするワケである。思うに非常に贅沢な時間がそこにはある。ある時は波音の聞こえる磯の隅っこで、またある時は夜灯が水面を照らすうつら寂れた漁港で、またある時は鹿や野うさぎが徘徊する田舎のキャンプ場で、またある時は人里遠く離れた山中の源流域で……。

学生時代にインドを旅した時にダージリンの安宿での屋上から夜空を見上げて、宇宙にはこんなにも星がいっぱいあるのかと腰を抜かしたことがあるが、案外日本国内の夜空も捨てたものじゃない。流れ星や真っ赤に染まる朝焼けの風景も普通に生活している人達に比べたら、ものすごい多くの回数見ているはずだ。

遠征の釣りというと二十代の頃はオフショアのターゲットを中心に攻めていた。しかしここ十数年はオカッパリがメインだ。オフショアというとどうしても出費が高まし、釣り以外の所で楽しむ要素が

